

平成 20, 21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
佐賀大学

目 次

資料 1 - 1	国際シンポジウム等への参加実績		1
【一部「著作権」】資料 1 - 2	経済学部国際シンポジウム「食糧危機と貧困解消」概要		1
資料 1 - 3	平成 20～21 年度 国際パートナーシッププログラムの概要		2
資料 1 - 4	環黄海大学院学生集中講義の開催概要（平成 21 年 8 月開催）		2
資料 1 - 5	学部が実施している学生への経済的支援（平成 20～21 年度）		3
資料 1 - 6	佐賀大学校友会国際交流奨励金給付要項（抜粋）		3
資料 1 - 7	大学院生の学会参加（発表）のための海外渡航費用等の支援実績（平成 21 年度 法人資金による分）		3
資料 2 - 1	試験問題の模範解答例や配点等の開示状況 学生アンケート結果		4
資料 3 - 1	平成 20 年度以降も継続, 又は開始した独創的研究課題の内容と成果		4
資料 3 - 2	重点研究プロジェクト等講演会の内容		4
資料 3 - 3	平成 21 年度学長経費による研究シーズの選定		5
【著作権】資料 3 - 4	有明海総合研究プロジェクトの研究経緯と成果（報道内容）		5
資料 3 - 5	これまでの成果を踏まえて今後の有明海研究を展開する新センターの設置		5
【一部「著作権」】資料 3 - 6	研究成果「周縁学」と刊行の報道内容		6
資料 4 - 1	ハノイ国家大学との協定締結（本学初の海外サテライト設置）		6
資料 5 - 1	国際パートナーシッププログラムの開催の様子（例示）		6
資料 5 - 2	主な国際シンポジウムの開催実績		7
資料 5 - 3	海洋エネルギー研究センター（共同利用・共同研究拠点）における国際共同研究・セミナー等の実績		7

名	称
---	---

(出典：事務局資料・平成21年度末現在)

食糧危機と貧困解消をテーマに、各国の研究者が意見を交わした国際会議が、2009年

食糧危機と貧困解消をテーマに、各国の研究者が意見を交わした国際シンポジウム
＝佐賀市の佐賀大



国の枠超え協調を

食糧危機で国際シンポ

佐賀大学

佐賀市 機「食糧危 協調の必要性を提 案した。

「食糧危機と貧困解消をテーマにした国際シンポジウムが26日、佐賀市の佐賀大であった。アジアを中心に4カ国の大学教授らが講演。市場を中心にした食糧分配システムの問題点を指摘し、国の枠組みを超え、協調の必要性を提案した。

オーストラリア（ニュー・ジークランド）のケン・ジャクソン教授は「農産物が投機対象になるなど、地球全体で十分な食糧があったとしても、必ずしもそれが全体に行き渡る」と、市場要と語った。佐賀大が

依存分配方法の問題点を指摘。その上で、WTOなどではなく、ASEAN（アセアン）や地域レベルでの協調が有効になると強調。田中孝一（たなか たけし）京大名誉教授も「米を主食とするアジア全体で、備蓄を考えることも必要」と語った。

毎年開いている国際シンポジウムの一環。この目録の問題点を考えるのは市民約30人が訪れた。（大橋）

- 1 -

資料 1-3 平成 20~21 年度 国際パートナーシッププログラムの概要

- 工学系研究科全専攻による国際共同の教育研究事業として実施
- 本プログラムには次の 3 条件を満たすプロジェクトを採択
 1. 東アジアの教育研究機関の教員と工学系研究科の教員による共同研究が進行中であること。
 2. 両機関の大学院生の専門教育ができること。
 3. 国際交流が具体的に進行していること。
- 国際パートナーシップを通じて、博士前・後期課程の学生が英語の講義を受講し、英語で研究発表を行うことにより、積極的に海外の学生と議論
- 博士前期課程の学生には「特別講義」(2 単位)として単位認定可

年度	実施専攻	パートナー大学	実施場所
20	物理科学科	韓国 延世大学校	佐賀大学
	機能物質化学科	韓国 大邱大学校	佐賀大学
	機械システム工学科	韓国 Sogang University	Sogang University, 佐賀大学
	機械システム工学科	韓国 安東大学校	佐賀大学校
	電気電子工学科	中国 武漢大学	武漢大学
	都市工学科	タイ アジア工科大学	アジア工科大学
	都市工学科	中国 浙江大学建築工程学院	佐賀大学
21	数理科学科	中国 精華大学・武漢大学	佐賀大学
	物理科学科	韓国 延世大学校	延世大学校
	機能物質化学科	中国 遼寧大学	佐賀大学
	機械システム工学科	韓国 Sogang University	Sogang University, 佐賀大学
	機械システム工学科	韓国 安東大学校	安東大学校
	電気電子工学科	中国 武漢大学	武漢大学
	都市工学科	タイ アジア工科大学	アジア工科大学
	都市工学科	中国 浙江大学建築工程学院	浙江大学建築工程学院

(出典：事務局資料・平成 21 年度末現在)

資料 1-4 環黄海大学院学生集中講義の開催概要 (平成 21 年 8 月開催)



国立大学法人 SAGA UNIVERSITY
佐賀大学
本庄キャンパス 〒840-8502 佐賀市本庄町1
 鏡島キャンパス 〒849-8501 佐賀市鏡島5丁目1番1号

お問い合わせ | 交通アクセス | キャンパスマップ | English | Q サイト検索

受験生の方へ | 市民の方へ | 企業・研究者の方へ | 卒業生の方へ | 在校生の方へ | 学内教職員用

大学案内 | 学部・大学院案内 | 附属施設・研究施設案内 | 入試案内 | 社会貢献活動 | 大学関連機関

トピックス
 ホーム>トピックス

佐賀大学でアジア・環黄海大学院生集中講義を開催
 佐賀大学の夢の実会館で、黄海沿岸の中国・韓国・台湾などの各大学と九州地区の大学が学術交流を行う「アジア・環黄海大学院生集中講義」が開催されました。
 これは、昨年開催された「環黄海総長(学長)フォーラム」で、佐賀大学の長谷川学長が集中講義形式による教育研究プログラムを提案し、実現したものです。
 初年度は、佐賀大学で開催し、8月4日(水)～7日(金)まで、農学研究科の食品化学分野に、佐賀大学、中国農業大学、中国海洋大学、大邱大学校(韓国)、釜山大学校(韓国)、元培科技大学(台湾)、長崎県立大学の7大学から、大学院生33名、教員14名が参加しました。
 また、8月25日(火)～30日(日)には教育学研究科の福祉分野も開催され、佐賀大学、牧園大学校(韓国)、華東師範大学(中国)、輔仁カトリック大学(台湾)の4大学から、大学院生12名、教員6名が参加しました。
 この講義の中で試験等を行い、成績を修めれば、それぞれの大学で単位が付与されることになっています。

(出典：佐賀大学ウェブサイト・平成 21 年 9 月)

資料 1-5 学部が実施している学生への経済的支援（平成 20～21 年度）

名 称	支援件数・金額	備 考
文化教育学部国際交流援助金	2 件 110 千円	平成 20 年度創設
医学部学術国際交流基金	5 件 760 千円	

(出典：事務局資料・平成 21 年度末現在)

資料 1-6 佐賀大学校友会国際交流奨励金給付要項（抜粋）

(平成 22 年 2 月 4 日制定)

1 趣旨

佐賀大学学生の国際的な学習・研究活動への参加による学習・研究能力向上と国際交流の深化を奨励するため、佐賀大学校友会国際交流奨励金（以下「奨励金」という。）を給付する。

2 申請資格

本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する学生（留学生を含む。以下「学生」という。）が国際的な学習・研究活動（以下「活動」という。）を行うとき、他からの費用の給付を受けていない場合に申請できるものとする。

3 奨励金給付の対象となる学生の活動

- (1) 国際学会等での研究発表
- (2) 海外における調査研究
- (3) 本学が海外大学等と共同して行う国際間授業、研究会等
- (4) その他学長が認めた活動

4 給付する金額

予算範囲内で、旅費、滞在費、学会参加登録料、その他必要と認められる費用の一部として別表により支給する。

ただし、別表に定める給付限度額を下回った場合は、その金額とする。

別表 佐賀大学校友会国際交流奨励金の活動地域別給付限度額

地域区分	活動地域	適用国又は地域	給付限度額
A 地域	アジア	中国、台湾、大韓民国、タイ、ベトナム	10 万円
	アメリカ合衆国	グアム、ハワイ、サイパン	
B 地域	アジア	A 地域以外のアジア	15 万円
	北米 欧州	アメリカ合衆国（A 地域以外）、カナダ ロシアを含む	
C 地域	中東 アフリカ 太平洋州 中南米	A、B 地域以外の地域	20 万円

(出典：留学生センターウェブサイト・平成 22 年 2 月)

資料 1-7 大学院生の学会参加（発表）のための海外渡航費用等の支援実績
(平成 21 年度 法人資金による分)

学生の所属研究科 (修士・博士前期)	件 数	金 額(千円)	学生の所属研究科 (博士・博士後期)	件 数	金 額(千円)
教育学研究科	1	101	医学系研究科	8	1,969
経済学研究科	1	69	工学系研究科	18	2,843
医学系研究科	2	60			
工学系研究科	33	2,904			
農学研究科	8	1,434	研究科合計	71	9,380

(出典：事務局 旅費システムデータベース・平成 21 年度末現在)

資料 2-1 試験問題の模範解答例や配点等の開示状況 学生アンケート結果

	知っている/ 開示を受けた	知っている/ 開示を受けていない	知らなかった/ 開示を受けた	知らなかった/ 開示を受けていない	合 計
文化教育学部	112 人	92 人	10 人	77 人	291 人
経済学部	164 人	125 人	13 人	118 人	420 人
医学部	418 人	120 人	38 人	122 人	698 人
理工学部	362 人	109 人	31 人	112 人	614 人
農学部	89 人	44 人	9 人	46 人	188 人
各研究科 計	24 人	21 人	2 人	40 人	87 人
未記入	66 人	38 人	11 人	32 人	147 人
合 計	1,235 人	549 人	114 人	547 人	2,445 人
	51%	22%	5%	22%	100%

実施日：平成 21 年 9 月 24 日～10 月 1 日

(出典：平成 21 年 12 月 25 日大学教育委員会資料)

資料 3-1 平成 20 年度以降も継続、又は開始した独創的研究課題の内容と成果

設定した研究課題名	構成学部・センター	期 間	終了後の展開
「災害弱者」のための地域安全総合研究	文化教育，経済，医，理工	平成 19～20 年度	発展させた研究テーマにより科学研究費補助金を獲得（課題番号：21653052）し，更に研究発展。
先端医療福祉システムの研究	医，理工，海洋エネルギー研究センター	平成 19～21 年度	平成 22 年度概算要求において，特別運営費交付金プロジェクト分（44,955 千円）として認められ，更に研究発展。
「佐賀学」創成にむけた地域歴史文化の総合的研究	文化教育，経済，地域学歴史文化研究センター	平成 20～22 年度	（継続中）
佐賀県の立地環境特性を活用した機能性農作物の開発に関する研究	文化教育，農，総合分析実験センター，海浜台地生物環境研究センター	平成 20～22 年度	（継続中）

(出典：事務局資料：平成 21 年度末現在)

資料 3-2 重点研究プロジェクト等講演会の内容

○ 講演会開催ポスター

佐賀大学重点研究プロジェクト及び優秀科学技術研究賞等受賞者による講演会

本学の中期目標・中期計画に基づく重点研究プロジェクトの研究成果及び現在の進捗状況や平成19年度に創設された優秀科学技術研究賞、優秀芸術文化賞、社会文化賞及び学術賞受賞者の活動状況について広く知っていただくため、この講演会の開催を企画しました。

講演者等：
研究プロジェクト関係
① 文化教育学部教授 田中 豊治
「アジア研究の成果と現在の取り組み状況」
平成17～18年度研究プロジェクト
② 文化教育学部教授 北川 慶子
「災害弱者のための地域安全総合研究」の成果と研究の広がり
平成19～20年度研究プロジェクト
③ 理工学部教授 渡 孝則
「廃棄物の無害化・再資源化システムの構築に関する研究」
平成17～18年度研究プロジェクト
④ 農学部教授 石丸 幹二
「健康長寿社会の構築を目指した医食同源の科学的解明」
平成17～19年度研究プロジェクト

各賞受賞者関係
① 医学部教授 古田 裕樹
H19 優秀科学技術研究賞
② 文化教育学部准教授 田中 右紀
H19 優秀芸術文化賞
③ 医学部教授 出原 賢治
H20 優秀科学技術研究賞
④ 文化教育学部准教授 松山 郁夫
H20 社会文化賞

○ 研究プロジェクト関係 講演内容（例示）

平成17～19年度 重点研究プロジェクト
健康長寿社会の構築を目指した医食同源の科学的解明

プロジェクト参加教員
(農学部) 柳田晃良、野瀬昭博、濱洋一郎、東江栄、井上興一、松本亮司、柴田敏行(現 三重大学)、永尾晃治、石丸幹二
(医学部、総合分析センター) 本本雅夫、吉田裕樹、野出孝一、宮崎義之、白石良介、藤瀬剛弘、岩切龍一、藤本一真、出原賢治、濱崎雄平、森本正敏(現 熊本保健科学大学)、北嶋修司
(文化教育学部) 木村靖夫、小西史子

プロジェクト研究成果
1) 佐賀県特産農作物の機能解析
海洋動植物に含まれる機能性成分の探索
アイスパラントを用いた食品機能性改善技術の開発
機能性生理活性物質やミネラルを高含量含む主科野菜の育種
植物ポリフェノールとの結合による食材タンパク質の機能化
機能性脂質の生活習慣病への予防効果
2) 生活習慣病の発症機構の解析とモデル動物の開発
食物アレルギーにおけるサイトカインの関与に関する臨床的研究
食品成分の細胞機能に対する新規作用の探索
機能性脂質の生活習慣病予防：血管機能、発症機構、脂質代謝
食物摂取によるアレルギー疾患の予防
生活習慣病モデル動物の開発
3) 食生活調査と食育指導、新食品の開発
地域高齢者(住民)の食生活と健康・生活習慣病に関する基礎研究
食生活、健康生活指導方法の確立
調理指導を通して子どもの心の健康を改善する試み

研究成果発表
1) ホームページ
2) 学内報(かちがらす) 新聞発表
3) シンポジウム
食と健康の科学
21世紀型食生活実現を促す
① 食生活調査と食育指導
② 食生活調査と食育指導
③ 食生活調査と食育指導

○ 各賞受賞者関係 講演内容

① IL-27 の二面的役割：Th1 誘導と炎症性サイトカイン産生抑制，② 戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成，③ アレルギー疾患の病態機序の解明とその克服に向けての戦略の構築，④ 障害者・高齢者のソーシャルワークに関する研究

(左側出典：佐賀大学ウェブサイト(平成 21 年 9 月)，右側出典：講演会資料(平成 21 年 9 月 26 日))

資料３－３ 平成 21 年度学長経費による研究シーズの選定

- 競争的資金対策室において、国立大学法人佐賀大学における教育・研究推進のための競争的資金申請手続等に関する申合せ（平成 20 年 8 月 4 日制定）を踏まえた、文部科学省を含む各省庁が支援する研究資金への応募・獲得を目指した研究活動への支援（研究シーズ支援経費）を行うために募集を行った結果、11 件の事業について応募。
- 同競争的資金申請手続等に関する申合せの第 4 に基づき厳正な審査を行い、次のとおり配分額を決定。

学部名	事業名	配分額（千円）
医学部	アトピー性皮膚炎に対する新規治療薬の開発	1,500
理工学部	ナノ磁性体の負熱膨張機構の解明と新規デバイス開発	1,500
経済学部	現代の貧困・社会的排除の考察と対策	1,000

（出典：平成 21 年 8 月 5 日 役員会資料）

【著作権】資料３－４ 有明海総合研究プロジェクトの研究経緯と成果（報道内容）

太良町沖で海底の泥変化

佐賀大発表 干拓事業が影響か

佐賀大有明海総合研究プロジェクトは 21 日、国営諫早湾干拓事業（長崎県）に よって、太良町沖の有明海で、海底の泥質の変化が起きた可能性があるとする研究成果を発表した。

同事業は 1997 年に諫早湾内を潮受け堤防で締め切り、有明海では 2000 年に大規模な養殖ノリの色落ちが発生。プロジェクトは「有明海異変」の原因を解明しようと 04 年度に発足し、05 年度から今年度までは文科省から期限付きの支援を受け、複数のグループで研究を進めてきた。

この日は、同大で研究の最終成果を報告する公開シンポジウムがあった。有明海の潮流などを調べてきたグループは、太良町沖で海底の細粒化が進んでいるこ

とを紹介。潮受け堤防の締め切りによって、泥などが潮流で運ばれる仕組みに変化が起きた可能性があると指摘した。

ただ、海底に生息する二枚貝・タイラギや有明海で盛んなノリ養殖への影響については明確に示さなかった。

研究を担当した速水祐一准教授（沿岸海洋学）は、諫早湾干拓事業による同湾外への影響が見えてきたのは一つの成果と話している。

同大は来年度以降も有明海の研究を継続するとしている。

（出典：平成 22 年 3 月 22 日付け読売新聞）

内容詳細：佐賀大学有明海総合研究プロジェクト ウェブサイト「5 年間の成果の概要」

(http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/download/5years_seika.pdf)・平成 22 年 3 月)

資料３－５ これまでの成果を踏まえて今後の有明海研究を展開する新センターの設置

低平地沿岸海域研究センター 主要研究テーマ(案)

1. 有明海に関する研究

- （短期）「諫早干拓問題」に関する研究
諫早開門を扱える数値シミュレーションモデルを構築し、諫早湾潮受け堤防の開門・締め切りの環境への影響を示す。
- （中長期）有明海の水環境の長期変化と人間活動の変遷に関する研究
過去 30 年程度の有明海の水環境変化について数値シミュレーションを行い、「環境異変」の主要な原因を明らかにする。さらに、その間の有明海周辺の人間活動の変遷を示し、人間活動と有明海との相互依存関係について考察する。
- （中長期）低平地・干潟浅水域・沖合域の水環境保全と持続的管理に関する研究
水域生態系・生物多様性が劣化あるいは遷移する中、水質、水量、水生生物、水際環境を総合的にとらえた水域生態系の保全のための調査研究を行う。特に、気候変動への対応、水環境の長期的なモニタリングとその蓄積を加味しながら環境変化への影響への適応策等の検討に役立てる。

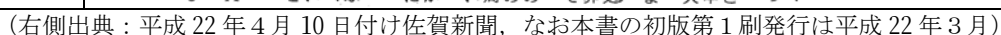
2. 低平地の水システムに関する研究

- （短期）地球環境時代の下废水处理に関する研究
水と物質が集積し、かつ下流海域に排出する低平地における水の浄化と資源回収・供給に関する研究を行う。特に枯渇資源であるリン回収技術を開発する。
- （中長期）地球温暖化と低平地の水システム
地球温暖化の影響を強く受ける低平地の利水、治水、環境、生態系への影響を定量的に予測し可能な対応策を検討する。

3. 低平地の防災地盤技術に関する研究

- （短期）低平地軟弱地盤上の土構造物の劣化および耐久性評価のための研究
海面上昇によって塩水化した地表・地下水に曝される低平地の河川・海岸堤防などの土構造物の劣化メカニズムならびに耐久性の評価技術について検討し、現存の防災基盤の強化や維持管理に役立てる。
- （短期）有明海沿岸道路の環境調和型の軟弱地盤対策技術および盛土構築技術の研究と事業の支援
道路盛土下における軟弱地盤および複合地盤の長期強度変化とその予測法に関する検討を行う。
- （中長期）低平地流域の特性に順応した防災基盤整備技術に関する研究
山から海にいたる低平地流域の余剰資源の特性を生かし活用する高耐久性の防災基盤の構築技術について、材料、工法、環境を総合的に考慮した調査研究を行い、低平地流域の特性に順応でき、かつ地域の持続的発展に役立つ地盤技術について検討する。地盤環境の変遷に伴う沖積地盤の土質工学的性質の変化とそのメカニズムに関するマイクロ・マクロメカニクス研究の推進と拠点の形成を行って基礎的視点を確立するとともに、気候変動の影響を伴う国内外の防災基盤整備技術に関する先導的役割を担う。

（出典：平成 22 年 3 月 19 日教育研究評議会資料）



(出典：本学広報誌「かちがらす18号」平成22年3月10日発行)

(出典：事務局資料・平成21年9月28日)

資料５－２ 主な国際シンポジウムの開催実績

低平地に関する国際シンポジウム (平成 20 年 9 月, 釜山) First announcement and call for papers International Symposium on Lowland Technology ISLT 2008 Grand Hotel, Haeundae, Busan September 24-26, 2008 Organized by International Association of Lowland Technology (IALT) Institute of Lowland Technology, Saga University Asian Regional Technical Committee (ATC)-7 (Thick Deltaic Deposits), ISSMGE Research Institute of Oceanography, Seoul National University In Cooperation with Lowland Research Association, Japan  Website : www.atc-7.org Bulletin No. 1 参加者数：海外約 100 人, 国内約 60 人 (本学参加者含む。) ※ 2 年ごとに開催, 開催地は持ち回り 平成 22 年度は佐賀大学にて開催予定	日韓沿岸島嶼問題シンポジウム (平成 22 年 2 月, 佐賀県唐津市) 日韓沿岸島嶼問題シンポジウム 2010 からつ 島嶼開発・島興し・島づくりの 未来像を探る 開催月日：2010 年 2 月 4 日 (木) ～ 5 日 (金) 主 催：佐賀大学海浜台地生物環境研究センター (唐津市) 後 援：唐津市、佐賀新聞社、からつ大学交流連携センター 内容 4 日 (木) 9:00～17:30 シンポジウム・討論会 報告者 午前「韓国における離島政策と離島開発・離島振興」 安建尚 (朝鮮大学校)「韓国における島嶼研究の成果と課題」 李廷甲 (大韓民国国立木浦大学校経営大学経済通商学部教授・韓国島嶼学会 会長)「島嶼類型化と類型別モデル開発戦略 - 全羅南道の島嶼を中心に -」 金熙垣 (韓国全羅南道新安郡庁)「新安郡の離島開発事業」 午後「日本における離島振興・島づくり」 長嶋俊介 (鹿児島大学教授) 佐賀大学客員研究員 「佐賀・韓国国境離島の未来像」 石川雄一 (長崎県立大学教授) 「離島地域における日常生活圏の拡大に関する現状と課題 — 長崎県の事例 —」 小林一幸 (唐津市地域振興部副部長) 「唐津市における島づくりの取組み」 海浜台地生物環境研究センター「玄海諸島振興・島づくりの課題」 総合討論「離島振興・島づくりの未来像」 会場 唐津市高齢者ふれあい会館りふれ (J R 西唐津駅東側) ホール 5 日 (金) ワークショップ・現地交流会 会場 唐津市加唐島 (百済・武寧王生誕地) 参加費：無料 問い合わせ先： 佐賀大学海浜台地生物環境研究センター 小林 (Tel : 0955-70-6061) 参加者数：海外 5 人, 国内約 70 人 (本学参加者含む。)
--	---

(左側出典：ATC-7 ウェブサイト (<http://www.atc-7.org/main.php>), 事務局資料・平成 21 年度末現在)

(右側出典：海浜台地生物環境研究センターウェブサイト, 事務局資料・平成 21 年度末現在)

資料５－３ 海洋エネルギー研究センター (共同利用・共同研究拠点) における国際共同研究・セミナー等の実績

開催日	研究集会名称	概要	参加人数
H21.3.26	2009 海洋エネルギーに関する国際セミナー	セミナーでは、カナダ及び韓国での海洋温度差発電や海洋流体エネルギー利用に関する現状についての講演を開催した。	45
H22.3.29	海洋エネルギー利用に関する国際シンポジウム 2010	シンポジウムでは、フランス及び日本をはじめ世界の海洋温度差発電や波力発電についての講演を開催した。	61

年度	プロジェクトテーマ	概要
20	くぼみ付き流路における流れの自律振動と幾何パラメーターの関係	中国・大連理工 大学
21	くぼみ付き流路における流れの自律振動の特徴及び主な影響因子についての研究	中国・大連理工 大学

(出典：平成 20 年度研究活動状況調査及び平成 21 年度同調査・毎翌年度 6 月末に文部科学省に提出)